

2018年（平成30年）2月5日月曜日（先勝）

日刊工業新聞

総合ガイド

ログイン

ニュース

動画

特集・連載

マイページ

機械 ロボット ICT エレクトロニクス 自動車・輸送機 化学・金属・繊維 環境・エネルギー 医療・健康・食品 建設・住宅・生活
商社・流通・サービス 政治・経済 金融・商況 地域経済 中小・ベンチャー 科学技術・大学 人物 オピニオン トピックス 新製品 その他
モノづくり日本会議 特集・広告 企業リリース 人事・機構改革 マイニュース マイクリップ

【特集】東京オートサロン

電子版オリジナル連載・特集

トップ ロボットニュース 記事詳細

【ロボット】

日本ロボット工業会

フラウンホーファー研究機構

工場用 I o T

工場用 I o T、日独で共同研究 「ORiN」規格連携で普及に弾み

ツイート

シェア 5

LINEで送る

(2018/1/18 05:00)



ORiNで異なるメーカーのロボットが共存（2017国際ロボット展、ORiN協議会ブース）

日本ロボット工業会は、ドイツのフラウンホーファー研究機構と工場用 I o T（モノのインターネット）技術の共同研究を始める。推進する規格「ORiN（オンライン）」と同機構が開発する新規格が相互に連携できるようにし、双方のユーザーやソフトウェア開発者の利便性を高める。異なるメーカーのロボットなどを共存しやすくする両規格を普及させ、I o Tの導入拡大につなげる。2018—20年ごろに連携技術を確認する構えだ。

ORiNは、異なるメーカーのFA（工場自動化）機器を共通の手法で応用ソフトなどと連動できるようにする日本発のミドルウェア規格。欧米で普及するデータ送受信規格「OPC-UA」などにも対応でき、多様な機器が混在する工場を簡単にI o T化できる技術として注目されている。フラウンホーファー研究機構もこの利点に着目し、16年に3年計画で同様の規格の開発を始めた。

日本ロボット工業会は18年2月に同機構と技術協力に関する覚書を交わし、協業を本格化する。実証により片方の規格で作ったシステムをもう片方の規格で簡単に運用できるようにするなど、相互連携を実現する。

現在、日本ロボット工業会に事務局を置くORiN協議会が、規格の次世代版「ORiN3」を開発中。フラウンホーファー側の規格との連携を開発プロジェクトの成果の一つに位置付ける。

両規格の相互連携が実現すれば、ユーザー側の利便性が高まるほか、双方に対応した応用ソフトの開発も容易になる。ソフトの充実が規格の普及拡大につながる。

(2018/1/18 05:00)

ツイート

シェア 5

LINEで送る

マイクリップ登録する

紙面イメージで見る

記事を利用する

あわせて読みたい

第13回企業ランキング／トヨタ、4年連続首位 車3社「存在感」示す第13回企業ランキング／トヨタ、4年連続首位 車3社「存在感」示す

鹿島が四角形のシールドマシン投入—トンネル工事掘削断面最小限に

第11回企業ランキング—「見えない企業力」評価

ようこそ、
jpabscmrnews@abeam.com
(ログイン中)

[ログアウト]

マイページ | マイニュース | マイ

電子版からのお知らせ

日刊工業新聞社からのお知らせ

最近あなたが読んだ記事

2018/01/18

シンク・ラボ、I o Tを活用で緊要
—高速インクジェットプリンター

カレンダーから探す

12月							2018年01月 ▼
日	月	火	水	木	金	土	
	1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31				

今日の紙面PDF



1月1
の紙
PDF